

オイスカ

in 四国
www.oisca-shikoku.org/

2015.Oct.
vol.15



あなたも参加しませんか？
オイスカサポーターの輪

大好き日本の食卓 ● No.7 刺身

推進協議会の活動報告

オイスカで学べる
多様性の尊重と価値観の共有

インドネシア
「ロンボック島」での
熱き想い、叶う
オイスカの森視察に参加して



Cultivate the Future
一歩ごとに、もっとうまくなる

大 日 大 好 本 好 き の き

No.7: 刺身



コベルさん(28)
バブアニューギニア出身

農業指導コース研修生。四国研修センターで2年間、職員の補助をしながら研修生の指導方法を研修中。一男一女のパパ。趣味はソフトボール。

大好き！豊かな魚食文化ニッポン！！

こんにちは。バブアニューギニアのコベルです。今は四国研修センターで農業指導の勉強をしながら、養鶏の担当もしています。

わたしは日本に来てからいろいろな食べ物を食べましたが、日本で一番好きな食べ物は「刺身」です。やっぱりマグロはおいしいですね。(わざわざはまだだめですけど...)

バブアニューギニアでは、むかし刺身は食べませんでした。皆、その食べ方を知りませんでしたし、料理せず

に食べるのは危ないと考えていました。それにわたしのふるさととは海から遠いので、海の魚を食べることも少なかったです。ですから、わたしはじめて日本に来た頃は、気持ちが悪くて食べたいとは全然思いませんでした。でもまわりの日本人が「おいしい、おいしい」と言うので勇気を出して食べました。とても



会員さんからいただいたプリのお刺身!

おいしかったです。体にいいことも知りませんでした。日本でいろいろな行ってきたとき、いろいろな作り方の刺身を見ました。刺身は見た目もきれいでおいしそうなんです。わたしは魚をさばくことはできませんが、刺身のような切り方はできません。バブアニューギニアの海には刺身にしたらおいしそうなお魚がたくさんいますから、チャンスがあったら切り方を勉強しておいしい刺身をつくりたいです。



オイスカの会員・支援者になって国際協力活動に参加しませんか？

OISCA オイスカが進める人材育成、海外開発協力、「子供の森」計画および啓発普及活動は、長期的な取り組みが必要です。継続的なご支援をお願いいたします。

今すぐできる支援の方法は5つ 無理なく続けられる方法をお選びください

■支援内容 支援に関する詳細は <http://www.oisca.org/support/> または下記問い合わせ先にご連絡ください

1 毎月の継続寄附	毎月500円でオイスカ活動をトータルにサポート。8月に年次報告書が届きます。 ●ワンコインサポーター.....500円×12カ月 ※月々の自動引き落とし 毎月2,000円からのオイスカ活動トータルサポート。月刊「OISCA」で活動の様子をご報告。 ●マンスリーサポーター.....2,000円~×12カ月 ※2,000円以上、任意(1,000円単位)の金額で月々の自動引き落とし
2 自由な寄附	各種活動の推進のための寄附です。時期、金額(1,000円以上)、回数は自由で、支援する事業をお選びいただけます。 ●海外開発協力事業 ●「子供の森」計画事業 ●人材育成事業 ●啓発普及事業(国内の森づくりなど啓発普及全般) ●啓発普及事業(海岸林再生プロジェクト) ●トータルサポート1,000円~(いつでも何度でも)※1,000円以上のお申込みで、金額は任意となります。
3 「子供の森」計画支援	年間1口5,000円で「子供の森」計画を支援して下さる方を募集。 支援証、活動を伝えるニュースと現地の子どもたちからのグリーティングカードが届きます。 ●「子供の森」計画支援.....5,000円/年
4 賛助会員	オイスカの活動に賛同し、ともに歩んで下さる方を募集。月刊「OISCA」で活動の様子をご報告。 ●維持会員.....20,000円/年 ●特別会員.....50,000円/年
5 集めて送る	自宅にしながら参加できるボランティアです。ベルマークは1点=1円で「子供の森」計画に、書き損じはがきは各種活動推進のために使われます。 ●ベルマーク ●書き損じはがき

問い合わせ先

◆四国支部	〒760-0017 香川県高松市番町2-17-15 第二讃機ビル2F	TEL:087-821-1503
◇高松推進協議会	〒760-0017 香川県高松市番町2-17-15 第二讃機ビル2F	TEL:087-821-1503
◇坂出推進協議会	〒762-0011 香川県坂出市江尻町1721-10[(株)石井内]	TEL:0877-45-0141
◇三豊推進協議会	〒769-1502 香川県三豊市豊中町笠田笠岡3915-3[(株)イナダ内]	TEL:0875-56-6001
◇香川東推進協議会	〒769-2304 香川県さぬき市昭和5806[高松東ファクトリーパーク さぬき市管理組合内]	TEL:0879-52-5070
◇中讃推進協議会	〒763-0034 香川県丸亀市大手町3-2-1[四国電力(株)丸亀営業所内]	TEL:0877-22-5973
◇綾川推進協議会	〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1[オイスカ四国研修センター内]	TEL:087-876-3333
◇徳島県推進協議会	〒770-8555 徳島県徳島市寺島本町東2-29[四国電力(株)徳島支店総務課内]	TEL:090-3181-0158
◇高知県推進協議会	〒780-0870 高知県高知市本町1-6-24[高知商工会議所総務部内]	TEL:088-875-1177
◆四国研修センター	〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1	TEL:087-876-3333

多様性の尊重と価値観の共有



現在オイスカ四国研修センターでは、5カ国6名の研修生が農業や調理、食品加工、環境、リーダーシップなどの研修を行っています。加えて、8月から10月までの二ヵ月間は沖縄県内で実習予定の技能実習生14名が日本語や日本文化、生活習慣などの学習を中心とする基礎研修を行っています。



また日常生活の中にも、点呼による規律訓練やテーブルマナーなど、特色あるオイスカの研修を実施しています。複数の国の研修生や日本人が一つ屋根の下で寝食を共にしているため、研修生は、生産技術だけでなく自主性、責任感、協調性も学ぶことが出来ます。文化、習慣、宗教の違う人達がお互いの価値観を尊重しながら、毎日を暮らしています。

オイスカでは研修プログラムの中で研修生と日本人との交流にも重きを置

いています。オイスカふるさと祭りに始まり、サツマイモのツルさしや芋ほり、田植え、稲刈り、宿泊体験、帰国前の修了式など、出来るだけ多くの方々にセンターへ足を運んで頂きたいと考えています。今までの参加者からは「日頃出来ない体験ができた」との声が多く楽しんでいただいています。その「日頃出来ない体験」とは、海外研修生との会話に始まり、掃除や食事、農業などですが、日常生活では食べるだけで、畑の草取りをしたり野菜を収穫したり、魚を三枚におろしたりする体験などを通じ、今の豊かな日本で生きている自分が、いかに食から離れているかということにも気づかされたりするそうです。時折、鶏を絞めて捌きますが、研修生の国では日常生活の中で当たり前に行われていることでも、日本人は新鮮な驚きとショックを受けるようです。

そのような、民族による生活習慣や価値観の違いを知ることは、今の日本人には必要なことのように思います。必要ですが、残念ながら学校や社会で学ぶことは出来ません。しかし、オイスカにはあります。色々な国の人たちと一緒に何かをするという経験は日本では普段、出来ないと思います。国際感覚と生活感覚を体験できることは、オイスカ研修センターの持ち味です。また、それがオイスカの提唱する「ふるさと作り」につながっていくのだと思います。

この多様性の尊重と価値観の共有を、どのように提供していくのが現在のオイスカの課題です。研修センターへ実際に来られたり研修生と関わられた方々は、ある程度、ご満足いただいていると思っています。しかし、その一時で終わってしまい、その後なかなか繋がっていないという関係が殆どです。やはり、今の日本の生活と離れているために自身の人生に取り込んでいくということが難しいのではと感じています。若い人が都会に出て、地方に耕作放棄地や空き家が増え、高齢化も進んでいます。とりわけ四国は、全国の10年



オイスカ四国研修センター 課長 矢野 耕平

先を歩んでいるとも聞きます。その状況を目の当たりにしているにも関わらず、これらの課題が改善されているように見えません。人が生きていく上で失ってはいけない大切な考えや心が多くある中で、それらが受け入れられない世の中になりつつあり「ふるさと作り」が広がらなければならないことは数多くありますが、平和な世の中を築いていくために、少しずつでも「ふるさと作り」を進めていきたいと思います。

に行われました。式典後は、運動場周辺での200本の植林を行い、二連の交流イベントを締め括ることができました。後はバリ島のデンパサールへと場所を移し、観光やショッピングを楽しみたいと願っていた矢先に、インドネシア運輸省がジャワ島東部のラウン山(3332メートル)噴火の影響により、人気観光地バリ島のバリ国際空港を、6日の正午から一時閉鎖することを発表しました。我が

訪問団の「観光組」も「ゴルフ組」も万休す！と頭を抱えたに違いないかもしれません。結局のところ、大自然の摂理に為す術はなくロンボック島で滞在を余儀なくされました。しかし、その後の復旧作業は迅速で、翌日のお昼にはデンパサールに移動でき、それぞれの観光地巡りも済ませて夕方には帰国の途に就いたわけですから、これはこれで珍しい経験として思い出の1ページに加わりました。

今回の訪問団が、このようにして所期の目的を達成し、無事帰国することができましたのは、多くの理解者と支援者の皆様のご協力の賜物と感謝を申し上げます。とりわけ、インドネシアと日本という遠隔の地にあつて、当事者同士の意思疎通に多大なご尽力をいただきましたオイスカインドネシア中垣駐在

代表様、積極的に汗を流していただいたオイスカ研修センターのハリッド所長様、細かいご連絡やご指導をいただきました牛田様、ロンボッククリンジャニLCの皆様、そしてここには記すことができなかった数多くの皆様にも、改めて心からお礼を申し上げます。
Terima Kasih!
事務局長 河崎 和義



※日最高気温が25度以上=夏日、同30度以上=真夏日、同35度以上=猛暑日

インドネシア「ロンボック島」での熱き想い、叶う

オイスカの森視察に参加して

ロンボック島でのボランティア活動に出發!

ここ数年、暑さが最も厳しくなる頃に、ボランティア活動で汗を流すことが恒例の行事となりました。今年もインドネシア共和国西ヌサ・テンガラ州ロンボック県(ロンボック島)で実施された《第3期第1回目「オイスカの森視察と坂出白峰ライオンズクラブ50周年記念事業》》に参加、25名の皆様と共に、8月4日(火)関西国際空港を飛び立ち、同8日(土)立秋の日に帰国しました。

私たち「オイスカ四国支部と坂出白峰ライオンズクラブ」が目指した彼の地は、インドネシアのバリ島からロンボック海峡を挟み見るロンボック島です。その島には富士山より500m低いリンジャニ山(3276メートル)が北部にそびえ、その南麓には広いサバンナが緩やかに展開しています。面積は約4990平方キロメートルと言いますから香川県約2.65倍、



人口も約270万人です。同じく約2.87倍と言う、島としては大きい方でもあります。更に加え、この島の気候は二年中が日本の夏のよう、赤道直下とは言え平均気温が28度前後と言います。日本に住んでいる事を思えば、夏日ではあっても真夏日や猛暑日にならない所が大いに魅力的と言えます。今回訪問団の交流は、8月4日(火)～8日(土)の間、ホテル三泊と機内一泊を含む四泊五日のスケジュールでした。石井淑雄公益財団法人オイスカ四国支部会長および今田憲宏坂出白峰ライオンズクラブ会長ほか総勢25名からなる、言わば、「ベンケル第3小学校への校舍寄贈式典と植林ボランティアツアー」となりました。

この島の気候は二年中が日本の夏のよう、赤道直下とは言え平均気温が28度前後と言います。日本に住んでいる事を思えば、夏日ではあっても真夏日や猛暑日にならない所が大いに魅力的と言えます。今回訪問団の交流は、8月4日(火)～8日(土)の間、ホテル三泊と機内一泊を含む四泊五日のスケジュールでした。石井淑雄公益財団法人オイスカ四国支部会長および今田憲宏坂出白峰ライオンズクラブ会長ほか総勢25名からなる、言わば、「ベンケル第3小学校への校舍寄贈式典と植林ボランティアツアー」となりました。

旅行初日となる8月4日(火)と最終日の8日(土)は、国内外からの長時間フライトを伴いますので、どうしても疲労感が増幅する慌ただしい移動日となりました。各種交流イベントの大半は、第2日目および第3日目の8月5日(水)と6日(木)の二日間に集中しており、両日とも、ホテルでの朝食を済ませると専用車にて現地へ赴くというものでした。最初は、オイスカ四国支部が過去10年にわたり100ヘクタールの地に10万本を植林した「クンビ地区」のその後の視察で、大きく成長した森林には感慨深いものがありました。坂出白峰LCが40周年記念事業で二教室を寄贈した「レバ・センパガ小学校」、更には45周年記念事業として図書館



未来のために…心を込めた200本の植林活動

翌日は坂出白峰LCが設立50周年記念事業として校舍を寄贈した「ベンケル第3小学校」を訪問し、メインイベントである寄贈式典が盛大

と保健室を寄贈した「レバック小学校」では、記念事業及び開始時の熱い気持ち思い出し、懐かしい気持ちに浸りました。その日の夕刻に開かれた《懇親パーティー》では在デンパサル日本国総領事館の野村昇総領事をはじめとして、現地の要人及びリンジャニLCメンバーほか、大勢の皆様のご臨席を得て、誠に有意義な交流懇親会となりました。

香川—香川東

会長 富田 義雄

広がる「海岸林再生プロジェクト」支援の輪

2011年3月11日の東日本大震災により、約400年前に伊達政宗公の命により植林が始まった宮城県名取市の海岸林は壊滅的な被害をうけました。国、県、市、その他関係者とオイスカの海岸林再生プロジェクト10カ年計画で海岸林100haの再生を目指しています。

今年5月のオイスカ四国支部主催「海岸林再生プロジェクト視察・体験ツアー」に、当協議会より柿木眞一氏が参加し、6月の



東北復興の一助になりたいと思いを強くしました



当協議会総会で体験ツアーの感動をスピーチして好評でした。8月7日の長尾ライオン

ズクラブ例会ではオイスカ啓発普及部吉田俊通副部長（海岸林再生プロジェクト担当）から熱いスピーチを頂き、終了後に森川康生会長から「海岸林再生プロジェクト」支援金を贈呈（二回目）しました。また、会員個人からの支援の輪も広がっています。



激励の思いを込めて支援金を贈呈

香川—綾川

会長 大方 義裕

「オイスカの夕べ」が盛会裏に開催されました

オイスカ綾川推進協議会では、8月29日（土）四国研修センターにおいて「オイスカの夕べ」（旧勉強会）を開催しました。この催しはオイスカをより理解していただくために、会員になって日の浅いやオイスカに関心のある方を対象に毎年開催しているものです。

今年32名もの参加がありました。勉強会では四国研修センター 萬代所長の講演とインドネシアの修生ディナルさんの



最新のオイスカ情報を熱心に聴く参加者と研修生



発表を聴きました。続いた懇親会は沖縄県で実習予定の技能実習生14名が入所した

ばかりだったので彼らの歓迎会も合わせて行い、参加者は総勢60余名となり盛会裏な催しとなりました。懇親会の料理やデザートは、研修生が作った各国のお国自慢の物です。皆さん満足そうに舌鼓を打っていました。アトラクションでは、研修生による合唱とチキンダンスや会員指導による「神様ありがとう」のダンスなどが披露され、参加者・研修生・オイスカスタッフ一体となり楽しい一時を過ごしました。



研修生によるバンブーバンド合唱隊



アフリカドラムの調べに乗せて

香川—高松

会長代行 杉村 和洋

「子供の森」計画お助け隊が古本回収

高松推進協議会は今年度、オイスカ活動の理解促進と組織の活性化を目的に「子供の森」計画を支援する古本回収プロジェクトに協力する「子供の森」計画お助け隊を会員有志で結成し、上半期は個人会員を中心に協力を呼び掛けました。ご自宅に伺ったり協議会事務所や研修センターに持参いただいたり、お陰様で多くの方から古本を寄贈いただき「子供の森」



「子供の森」計画お助け隊のエンブレムと専用キャップ

計画を支援することができました。下半期は法人会員に協力を呼び掛けながら、多くの方に「子供の森」計画の広報や支援のお願いを行ってまいります。

1991年に始まった「子供の森」計画は、単に学校や周辺地域の緑化活動に留まらず、子どもから大人まで環境保全意識を高める取り組みとして、国連はじめ各国の政府機関等から高く評価されており、オイスカ理念を広く伝えている事業です。引き続き「子供の森」計画お助け隊へのご参加とご協力を、よろしく願っています。

また、11月には恒例のチャリティゴルフ大会を開催予定です。多くの方のご参加をお待ちしております。



「子供の森」計画を各国で担当している研修生も回収に伺います

香川—三豊

会長 稲田 覚

オイスカの平和協力カンボジアでの実践を通じて

8月初め、オイスカ静岡県支部より「カンボジア王国・アンコールワットで三豊推進協議会の作った五ヶ年の森を見ました」が、素晴らしい感動しました。この計画は、一人の大臣との出会いから始まりました。内戦終了後、自分達のふるさとを復興するためには、森づくりも大切であろうとの強い思いがあり、この森づくり事業をスタートさせたのです。私は2005年からの五ヶ年計画でアンコールワット周辺にて5ha、21000本の植林を行いました。そして8月25日、三豊

推進協議会の未来会員候補生の30代の若者4名とともに植林地を訪ねる機会がありました。高まる胸の鼓動を感じながら向



地元の方から大切に管理されているロウソクの木

かったのです。バス車内からオイスカ公園の看板が目に入り、とても懐かしく、嬉しく…。若者達も「こいや、こいやわ：看板があるわ：」とまるで自分達が植えたかのように騒いだのです。次に飛び込んで来たのは、植林時いつも村人を指導してくれていた一人のリーダー。森林局の人によると「10年間、彼は毎日ここへ来て自分の森のように愛情を込めて草刈りや水やりなどの手入れをしてきています」とのこと。近寄って手を握り「ありがとうございます」と頭が自然に下がりました。オイスカの植林事業は、単なる環境保護だけでなくこのように森を守るといふ気持ち、関係者達がお互いに持続することに より言葉が通じなくても心が通じ合い平和が訪れるという、大きな目的が達成出来るものだとも思います。この大きく育った木々を見て、あの時の植林の意義がきちんと根付いていることを実感しました。

香川一坂出

会長 宮崎 博文

長く続くインドネシア・ロンボク島への支援協力

去る4月13日〜16日まで石井四国支部会長、河崎事務局長、私の3名でインドネシア・ロンボク島にまいりました。オイスカ四国支部と坂出白峰ライオンズクラブとの三回目(40、45周年)の協働で、坂出白峰LC結成50周年記念事業の一環として再び教室を寄贈することが決定し、昨年10月オイスカスカプミ研修センター副所長でロンボク島出身のハリッド氏に、「子供の森」計画支援校の中で寄贈するに相応しい学校を推薦していただき、西ロンボク



素敵な踊りを披露してくれた民族衣装に身を包んだ子供達



県及びベンケル小学校を訪問し実情を調査した上で決定しました。ザイニ校長によると、人口増で県も対応しきれず、ベンケル小学校は2012年に開校し生徒数は135名で1年〜4年生まで、教室が足りないために1、2年生は午前中、3、4年生は午後、それぞれ授業を行い、なおかつ廊下や校舎横の陰で勉強をしている姿を目の当たりにしました。来年7月に1年生40名が入学する予定で、この支援は村中が待ち望んでいると感じました。4月15日の起工式では石井会長、リリーリンジャーニールC会長、教育長が定礎を行い300人の生徒や村人と喜び会いました。8月の完成引き渡し式で皆との再会を約束し、帰国の途に着きました。

香川一中讃

会長 中野 百合子

丸亀お城まつりとオイスカ

「丸亀お城まつり」にオイスカが参加するようになり三年目になります。丸亀市民の皆様にも認知され、こだわり物産展の指定席で、バキスタンカレーを待つてくれるお客様も大勢になりました。回を重ねるごとにノウハウが出来てきたように感じていますが今回は少々様子が違いまして。それは天気予報が雨となっておりカレーの仕込み数が決まらず難航したのです。前年



こだわりカレーを笑顔で販売。オイスカPRも頑張ります



は二日間で700食販売したので、センターと連絡を取りつつ初日は400食、二日目は150食、それぞれ発注しました。お城まつりが始まると初日は雨がばらばらして300食の売り上げで終了。二日目は雨の予報は当たらず良いお天気でした。研修生はお祭りが大好きな様子で、見学したり屋台で食べ物を買ったりして楽しんでいました。また、研修生が民族衣装でお手伝いしてくれ、色々な方から頑張りがいとお声かけいただき、ありがたかったと思います。食べ物売るのは大変と感じた二日間でしたが、オイスカのPRと海岸林再生プロジェクトの紹介などできて、とても良い活動ができました。

徳島一徳島県

会長 岡田 典子

「阿波おどり」で楽しく交流

8月13日(木)、女性部(会長:岩木順子)が「阿波おどり交流」に四国研修センターの研修生6名とスタッフら4名の皆さん10名を今年も招待しました。踊りに先立ち、みっちり練習をした後、軽く腹ごしらえして、「よんでんグループ連」に参加しました。まず「よんでん阿波おどり広場」では、約400名の観客の前で一踊りしました。しかし、徳島市内の阿波おどり演舞場で最長(170m)の「両国本町演



両国本町演舞場で観客の皆さんから声援を受け「ヤットサー!」



舞場」に向かう途中で雨。一時はどうなるかと思っていきましたが、研修生の皆さんの熱気で、踊り込む前に雨は上がり、約4千人の前で踊りを披露しました。それぞれの演舞場の観客から、練習の成果があつて、大きな拍手をいただき、さらには、同連の平野連長からは、「初めてとは思えない踊りを披露していただき、また、隊列も乱さず、とてもよかったです!」と高い評価をいただきました。研修生の皆さんは、研修では味わえない心地よい汗を流していたように思います。

踊り終わった後は、女性部の皆さんが用意された果物や軽食を味わいながら、研修生の皆さんから踊った感想などを語り合い楽しい一時を過ごしました。

高知一高知県

会長 青木 章泰

「夏休み親子ふれあい木工教室」を開催

8月20日(木)「夏休み親子ふれあい木工教室」を開催しました。これは、子どもたちの夏休みの研究・学習の支援と身近な自然環境への理解を深めることを目的に、四国森林管理局との共催で毎年実施しており、今年も、親子39名が参加しました。

当推進協議会では、そのなかの行事の一つ「つみ木教室」を四国研修センター研修生のコペルさんとグレンダさんに担当してもらいました。まず始めに森林の



大切さを子供たちに説明した後、「つみ木シャワー」を体験してもらい、続いて思

い思いの作品を作ったりして、楽しいひと時を過ごしていただきました。参加者からは「木の大切さが分かった」「つみ木でもっと遊びたかった」などの声が聞かれました。オイスカ高知県推進協議会では、今後も当行事を通じて、森林の大切さを学び自然環境への興味を持っていただくとともに、オイスカの知名度アップや会員増強につなげていきたいと思っています。



森林の大切さやオイスカについて説明する研修生のみなさん



つみ木を使って思い思いの作品を作っている子供たち